

ぼくらができるひ災地支えん

題材のねらい

災害時に支援する側や支援される側の思いにふれ、被災地に望まれる支援に取り組もうとする態度を育てる。

教科等との関連

学級活動 (2) -ア 希望や目標をもって生きる態度の形成

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入	災害後の被災地の生活について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 災害後の被災地の生活において、必要な物について具体的に考えさせる。 災害後の被災地の生活について、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の様子を知らせる。
展開	被災地に対して、自分たちに何ができるかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災や東日本大震災で小学生が行った支援内容を参考に、自分たちにできることを考えさせる。 災害後の経過時間によって、支援内容が変わる場合があることを理解させる。 被災地に望まれる支援について、生活に必要なものだけでなく、被災された人たちの気持ちを理解することが大切であることをおさえる。
まとめ	望まれる支援についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の置かれている立場を考えて、支援することを知らせる。

ぼくらができるひ災地支えん

「ぼくも何かをしよう。」
 そんな声があがったのは、神戸を大地震がおそってから3日目の朝、ボランティアの人たちがやって来たニュースを見ているときだった。
 わたしたちのクラスでは、朝も昼も大震災のニュースをテレビで見ている。1日目の朝は、びっくりしてさわいでいた。でも、その日の昼からは、みんなだまってしまった。道路やビルがこわれているだけでなく、火が燃え広がっている。家族をなくし泣いている人がいる。家をなくし立ちつくす人がいる。たくさんの人たちが学校に避難している。人々の苦しみや悲しみが、わたしたちにもひしひしと伝わってきた。
 3日目の2時間目から、何かできることはないかとクラスで話し合った。わたしたちの力で、今すぐできることを考えた。学校や避難所にいる人たちにはげましの手紙を送ること、ぼんぼんを集めて送ること、そして児童会にもよびかけて全校に協力してもらうことに決まった。
 児童会の委員が、校門でぼんぼんを集めている。先生たちや学校に来た大人の人にもぼんぼんをしてくれる。わざわざ、学校まで持ってきてくれる人もいた。はげましの手紙はわたしたちのクラスで集めている。こんなに集まるとは思っていなかった。1年生の子まで書いてくれた。みんな、大地震におそわれた人々を、少しでも助けたいと思っている。
 「地いきの人にもよびかけよう。」
 そんな意見も出てきて、学級会で話し合うことになった。
 ひ害の大きさに比べたら、わたしたちがやっていることはささいなことかもしれないけど、わたしたちは、今がんばっている。

(明日に生きる「ぼくも何かをしよう」)

東日本大震災で兵庫の小学生が行った支えん

A 校内でのぼんぼん活動 (三木市立別所小)

B 津波で流された写真のどろやほこりを取り除く活動 (神戸市立種木小)

C 支援物資は箱ごとに分類して送れば被災地で分けをしなくてすむね。

被災者のために手紙と折り紙を送る活動 (太子町立瑞穂小学校)

お礼の手紙はうれしかったけど、書くのもたいへんだってしようね。

学校でつくった米を被災地へ送る活動の計画 (豊岡市内の14小学校)

お礼の手紙
 被災地に住む小学生のみなさん、お礼の手紙が送られてきました。とてもうれしかったです。お礼の手紙は、すぐに被災地で届けてあげました。お礼の手紙は、被災地のみなさんに届いて、お礼の手紙が送られてきました。お礼の手紙は、被災地のみなさんに届いて、お礼の手紙が送られてきました。お礼の手紙は、被災地のみなさんに届いて、お礼の手紙が送られてきました。

- A** 集まったお金は、必ず大人が管理し、集計した上で公的な義援金等の受付機関に届ける。
- B** 物資を届けるだけが支援ではなく、被災場所・被災状況によっては様々なボランティア活動や、被災地の学校との交流など心を届ける支援もある。
- C** 被災者によっては、返事を送りたくても送れない状況にある場合があることを理解させ、返事等を求めないよう留意する。